

タイトル「**2021年度スポーツ科学部(公開用_コロナ対策版)**」、フォルダ「**スポーツ科学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	SSCS2306		
科目名	競技スポーツ方法実習Ⅱ		
担当教員	山本 大		
対象学年	2年,3年,4年	開講学期	後期
曜日・時限	水 4		
講義室	1309	単位区分	必
授業形態	実習	単位数	1
科目大分類	専門		
科目中分類	専門基礎		
科目小分類	専門基礎		
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード 学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP 2 - A〔日本の精神文化を理解し多様な価値を受容する姿勢〕 地球的視点で物事を多面的に捉え、異文化との交流の重要性を認識するとともに、異文化との交流を積極的かつ多面的に行い、相互理解を促進し互恵関係を構築することができる。 DP 4 - F〔探求力・課題解決力〕 問を設定し又は論点を特定し、それに対する答・結論・判断を合理的に導くために、論拠の収集と分析を体系的に行うとともに、オープンエンドな問題・課題に答えるための方略をデザインし、検証し実行することができる。 DP 4 - I〔理解力・分析力〕 文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。 ■ C Rコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（C R）との関連 F 1 探究と論拠（35%） F 2 課題解決（35%） I 1 理解・分析と読解（5%） I 2 量的分析（10%） I 3 情報分析（10%） A 2 異文化適応（5%）		
教員の実務経験			
成績ターゲット区分	■ 成績ターゲット 能力開発の目標ステージとの対応 2 進期期 ～ 3 発展期		
科目概要・キーワード	競技スポーツ方法実習Ⅰでの分析結果を踏まえ、促発能力分析をさらに充実したものとするために、促発能力分析報告書や授業シート等を活用し、運動技術を教えるための学習をさらに深めていきます。これらの学習で行われる分析は、授業時間内での分析方法及び分析結果に関する反省的議論を通じて自身の促発能力の向上に役立てていきます。また、これまでの授業内で取り扱ってきた内容についてまとめ、自身の指導能力を総合的に向上させていくことも目指します。授業形式は実習（講義含む）形式により行います。なお、授業を補完・代替するためオンライン授業（オンデマンド型・ライブ配信型）を取り入れます。 ■ キーワード 促発能力、コーチング、運動感覚能力の活性化		
授業の趣旨	■ 副題 学習者の情況を見極め、「観察能力」「発信能力」「代行能力」「処方能力」を瞬間的に発揮したコーチングができるようになることを目指し、コーチに求められる促発能力を身に付けるための学習を行います。 ■ 授業の目的 本授業の目的は、自身がもしコーチなどの指導者の立場に立った時、どのような指導を行うかということについて、創発・促発能力分析の往復を通して（授業時間内での分析及び分析結果に関する反省的議論を通じて）、自身の促発能力（教える能力）を向上させるための知識を修得することです。 ■ 授業のポイント 競技スポーツ方法実習Ⅰでは、学習者に運動を「教える」際に、コーチとして身に付けておく必要がある基本的要素を学修しました。本授業では、これまで扱ってきた「観察能力」「発信能力」「代行能力」「処方能力」を実際のコーチング実践を想定した中で発揮していくことを目指し、運動技術を「教える」際に求められる能力を学修していきます。競技スポーツ方法実習Ⅰでは、4つの能力を個別に検討しましたが、本授業では、様々なスポーツで行われる基本的運動技術（回る、蹴る、打つ、跳ぶなど）を題材に、4つの能力を連動させていくことを目指していきます。その中でも、コーチに求められる能力を十分に説明できるようにすることも求められます。 本授業は、運動を「教える」ために必要な基本的な要素を学修していきます。全授業15回のうち8回は実技を予定しています。講義と実技を組み入れ、皆さんが「教える」ことを主体的に考えることができるように授業を展開していきます。		
総合到達目標	■ 運動を「教える」際に、どのような競技のコーチにも共通して求められる基礎的能力を身につけるために、「観察能力」「発信能力」「代行能力」「処方能力」の4つの能力について理解し、それらの教える能力を活かせるコーチング方法を修得する。 ・ 競技スポーツ方法実習Ⅰを踏まえ、スポーツ実践活動で求められる創発能力と促発能力をコーチの立場から説明することができる。【知識】（第1回目・2回目及び第15回目授業） ・ 競技スポーツ方法実習Ⅰを踏まえ、運動特性を捉えた上で、コーチとして「観察能力」「発信能力」「代行能力」「処方能力」を意識したコーチングを実施できる。【技能】（第3回目から14回目授業） ・ 「観察能力」「発信能力」「代行能力」「処方能力」それぞれの課題に対して予習を行い、授業で実践し、復習するサイクルを示すことができる。【態度】（第3回目から14回目）		

成績評価方法	■レポート1回（10％）：適用ルーブリック F1・F2・I1 （評価の観点）自身がこれまで受けてきたコーチングで具体的な1事例を取り上げることができているかを確認します。また、本授業で扱った各能力について取り上げ、自身がもしコーチなどの指導者の立場だった場合に、どのようなコーチングを行うか考えが記述されているか確認します。 （フィードバックの方法）教員が確認し、コメントを添えて返却します。 ■促発能力分析報告書4回（25％）：適用ルーブリック F1・F2・I1・I2・I3・A2 （評価の観点）予習を適切に行っていることを踏まえ、本授業で扱った各能力について相互的に取り上げ、その客観的な様子や自身の考えが記述されているか確認します。 （フィードバックの方法）教員が確認し、コメントを添えて返却します。 ■コーチングメソッド4回（25％）：適用ルーブリック F1・F2・I1・I2・I3・A2 （評価の観点）実習を踏まえ促発能力分析報告書に記載した内容を活用し、本授業で扱った各能力について相互的に取り上げ、コーチングメソッドが記述されているか確認します。 （フィードバックの方法）教員が確認し、コメントを添えて返却します。 ■予習シート4回（20％）：適用ルーブリック F1・F2・I1・I2・I3・A2 （評価の観点）授業で求められる運動の局面構造や感覚的情報、位相などを整理し、記述することができているか確認します。 （フィードバックの方法）教員が確認し、コメントを添えて返却します。 ■授業シート4回（20％）：適用ルーブリック F1・F2・I1・I2・I3・A2 （評価の観点）創発、促発能力を活かして、あなた自身のコーチング能力を向上させるための考えが述べられているか確認します。 （フィードバックの方法）教員が確認し、コメントを添えて返却します。												
履修条件	「競技スポーツ方法実習ⅠSSCS2305」を履修している必要があります。												
履修上の注意点	コーチ（指導者）には、運動技術を効果的に「教える」能力が求められます。「教える」ためには、自身が運動をどのように行うのか、どのように行えるようになったのかを十分に分析しておく必要があります。それらの内容は、「競技スポーツ実習Ⅰ・Ⅱ」や「競技スポーツ習得実習Ⅰ・Ⅱ」で学修している内容ですので、受講に先立ち、それらの講義内容を改めて整理しておきましょう。												
授業内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th><th>内容</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td> ①授業テーマ 本授業で扱う「運動創発能力」と「促発能力」とは（科目概要の説明および授業の進め方の説明を含む） ②授業概要 本科目の概要、授業の進め方と評価および学習を行うにあたって留意すべき点などについて概説し、「競技スポーツ実習Ⅰ」を踏まえ、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。また、「競技スポーツ実習Ⅰ」「競技スポーツ習得実習Ⅰ・Ⅱ」「競技スポーツ方法実習Ⅰ」もしくは「スポーツ運動学原論」で学修した、運動創発能力と促発能力とはどのような能力のことを指すのか確認を行う（F1、F2）。 ③予習（30分） シラバスの内容を一読し、競技スポーツ方法実習Ⅰで作成した「促発能力分析報告書」、競技スポーツ実習Ⅰ・Ⅱや競技スポーツ習得実習Ⅰ・Ⅱで作成した「トレーニング分析書」や「創発能力分析報告書」を活用して授業内容の全体像を把握する。また「スポーツ運動学原論」の授業内容を振り返って、学修した運動感覚的概念を説明できるようにしておく。 ④復習（30分） 授業ノートを振り返り、第2回目の授業で促発能力を構成する概念を、具体例を例示して説明できるようにしておく。 </td></tr> <tr> <td>2</td><td> ①授業テーマ コーチなどの指導者に求められる「運動促発能力」とは ②授業概要 競技スポーツ方法実習Ⅰ（スポーツ運動学原論を含む）で学修した運動創発能力と促発能力を踏まえ、促発能力としての「観察能力」「交信能力」「代行能力」「処方能力」といった指導者に求められる能力に対する理解を深める（F1、F2）。また、自身がこれまで受けてきたコーチングを振り返り、その事例を授業シートにまとめる（F1、F2、I2、I3、A2）。 ③予習（30分） 第1回目の授業内で配布される予習シートに、受講生が自身の経験として、これまで受けてきたコーチングを振り返り、その中の一事例として運動技術を指導された内容を記述してくる。 ④復習（30分） 授業ノート（授業内配布資料）を振り返り、促発能力を構成する概念を、具体例を例示して説明できるようにしておく。 </td></tr> <tr> <td>3</td><td> ①授業テーマ 方法実習 ピリエット① ②授業概要 コーチなどの指導者として求められる「促発能力」を意識し、授業内で「ピリエット」のコーチングを行う（F1、F2、I2、I3、A2）。コーチング内容は授業内で配布される授業シートに記述する（I2、I3）。 ③予習（30分） ピリエットについて、第2回目の授業内で配布される予習シートに予習内容を記述してくる。 ④復習（30分） 授業内容を振り返り、第4回目の授業で「促発能力分析報告書」を作成する準備をする。 </td></tr> <tr> <td>4</td><td> ①授業テーマ 方法実習 ピリエット② ②授業概要 第3回目の授業で行なったコーチング内容を振り返り、「促発能力分析報告書」に記述する（F1、F2、I2、I3、A2）。 ③予習（30分） 第3回目の授業で記入した授業シートを振り返り、「促発能力分析報告書」に記述する準備をする。 ④復習（30分） 「促発能力分析報告書」を基に、第5回目の授業でコーチングを行う準備をする。 </td></tr> <tr> <td>5</td><td> ①授業テーマ 方法実習 ピリエット③ ②授業概要 コーチなどの指導者として求められる「促発能力」を意識し、授業内で「ピリエット」のコーチングを行う（F1、F2、I2、I3、A2）。第3回目の授業で行なった対象者とは異なる対象者にコーチングを行う（A2）。コーチング内容は授業内で配布される授業シートに記述し、コーチングメソッドを考える（F1、F2、I2、I3、A2）。 </td></tr> </tbody> </table>	回	内容	1	①授業テーマ 本授業で扱う「運動創発能力」と「促発能力」とは（科目概要の説明および授業の進め方の説明を含む） ②授業概要 本科目の概要、授業の進め方と評価および学習を行うにあたって留意すべき点などについて概説し、「競技スポーツ実習Ⅰ」を踏まえ、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。また、「競技スポーツ実習Ⅰ」「競技スポーツ習得実習Ⅰ・Ⅱ」「競技スポーツ方法実習Ⅰ」もしくは「スポーツ運動学原論」で学修した、運動創発能力と促発能力とはどのような能力のことを指すのか確認を行う（F1、F2）。 ③予習（30分） シラバスの内容を一読し、競技スポーツ方法実習Ⅰで作成した「促発能力分析報告書」、競技スポーツ実習Ⅰ・Ⅱや競技スポーツ習得実習Ⅰ・Ⅱで作成した「トレーニング分析書」や「創発能力分析報告書」を活用して授業内容の全体像を把握する。また「スポーツ運動学原論」の授業内容を振り返って、学修した運動感覚的概念を説明できるようにしておく。 ④復習（30分） 授業ノートを振り返り、第2回目の授業で促発能力を構成する概念を、具体例を例示して説明できるようにしておく。	2	①授業テーマ コーチなどの指導者に求められる「運動促発能力」とは ②授業概要 競技スポーツ方法実習Ⅰ（スポーツ運動学原論を含む）で学修した運動創発能力と促発能力を踏まえ、促発能力としての「観察能力」「交信能力」「代行能力」「処方能力」といった指導者に求められる能力に対する理解を深める（F1、F2）。また、自身がこれまで受けてきたコーチングを振り返り、その事例を授業シートにまとめる（F1、F2、I2、I3、A2）。 ③予習（30分） 第1回目の授業内で配布される予習シートに、受講生が自身の経験として、これまで受けてきたコーチングを振り返り、その中の一事例として運動技術を指導された内容を記述してくる。 ④復習（30分） 授業ノート（授業内配布資料）を振り返り、促発能力を構成する概念を、具体例を例示して説明できるようにしておく。	3	①授業テーマ 方法実習 ピリエット① ②授業概要 コーチなどの指導者として求められる「促発能力」を意識し、授業内で「ピリエット」のコーチングを行う（F1、F2、I2、I3、A2）。コーチング内容は授業内で配布される授業シートに記述する（I2、I3）。 ③予習（30分） ピリエットについて、第2回目の授業内で配布される予習シートに予習内容を記述してくる。 ④復習（30分） 授業内容を振り返り、第4回目の授業で「促発能力分析報告書」を作成する準備をする。	4	①授業テーマ 方法実習 ピリエット② ②授業概要 第3回目の授業で行なったコーチング内容を振り返り、「促発能力分析報告書」に記述する（F1、F2、I2、I3、A2）。 ③予習（30分） 第3回目の授業で記入した授業シートを振り返り、「促発能力分析報告書」に記述する準備をする。 ④復習（30分） 「促発能力分析報告書」を基に、第5回目の授業でコーチングを行う準備をする。	5	①授業テーマ 方法実習 ピリエット③ ②授業概要 コーチなどの指導者として求められる「促発能力」を意識し、授業内で「ピリエット」のコーチングを行う（F1、F2、I2、I3、A2）。第3回目の授業で行なった対象者とは異なる対象者にコーチングを行う（A2）。コーチング内容は授業内で配布される授業シートに記述し、コーチングメソッドを考える（F1、F2、I2、I3、A2）。
回	内容												
1	①授業テーマ 本授業で扱う「運動創発能力」と「促発能力」とは（科目概要の説明および授業の進め方の説明を含む） ②授業概要 本科目の概要、授業の進め方と評価および学習を行うにあたって留意すべき点などについて概説し、「競技スポーツ実習Ⅰ」を踏まえ、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。また、「競技スポーツ実習Ⅰ」「競技スポーツ習得実習Ⅰ・Ⅱ」「競技スポーツ方法実習Ⅰ」もしくは「スポーツ運動学原論」で学修した、運動創発能力と促発能力とはどのような能力のことを指すのか確認を行う（F1、F2）。 ③予習（30分） シラバスの内容を一読し、競技スポーツ方法実習Ⅰで作成した「促発能力分析報告書」、競技スポーツ実習Ⅰ・Ⅱや競技スポーツ習得実習Ⅰ・Ⅱで作成した「トレーニング分析書」や「創発能力分析報告書」を活用して授業内容の全体像を把握する。また「スポーツ運動学原論」の授業内容を振り返って、学修した運動感覚的概念を説明できるようにしておく。 ④復習（30分） 授業ノートを振り返り、第2回目の授業で促発能力を構成する概念を、具体例を例示して説明できるようにしておく。												
2	①授業テーマ コーチなどの指導者に求められる「運動促発能力」とは ②授業概要 競技スポーツ方法実習Ⅰ（スポーツ運動学原論を含む）で学修した運動創発能力と促発能力を踏まえ、促発能力としての「観察能力」「交信能力」「代行能力」「処方能力」といった指導者に求められる能力に対する理解を深める（F1、F2）。また、自身がこれまで受けてきたコーチングを振り返り、その事例を授業シートにまとめる（F1、F2、I2、I3、A2）。 ③予習（30分） 第1回目の授業内で配布される予習シートに、受講生が自身の経験として、これまで受けてきたコーチングを振り返り、その中の一事例として運動技術を指導された内容を記述してくる。 ④復習（30分） 授業ノート（授業内配布資料）を振り返り、促発能力を構成する概念を、具体例を例示して説明できるようにしておく。												
3	①授業テーマ 方法実習 ピリエット① ②授業概要 コーチなどの指導者として求められる「促発能力」を意識し、授業内で「ピリエット」のコーチングを行う（F1、F2、I2、I3、A2）。コーチング内容は授業内で配布される授業シートに記述する（I2、I3）。 ③予習（30分） ピリエットについて、第2回目の授業内で配布される予習シートに予習内容を記述してくる。 ④復習（30分） 授業内容を振り返り、第4回目の授業で「促発能力分析報告書」を作成する準備をする。												
4	①授業テーマ 方法実習 ピリエット② ②授業概要 第3回目の授業で行なったコーチング内容を振り返り、「促発能力分析報告書」に記述する（F1、F2、I2、I3、A2）。 ③予習（30分） 第3回目の授業で記入した授業シートを振り返り、「促発能力分析報告書」に記述する準備をする。 ④復習（30分） 「促発能力分析報告書」を基に、第5回目の授業でコーチングを行う準備をする。												
5	①授業テーマ 方法実習 ピリエット③ ②授業概要 コーチなどの指導者として求められる「促発能力」を意識し、授業内で「ピリエット」のコーチングを行う（F1、F2、I2、I3、A2）。第3回目の授業で行なった対象者とは異なる対象者にコーチングを行う（A2）。コーチング内容は授業内で配布される授業シートに記述し、コーチングメソッドを考える（F1、F2、I2、I3、A2）。												

	③予 習 (30分) ピルエットについて、「促発能力分析報告書」に記述した内容を基に、第4回目の授業内で配布される予習シートに予習内容を記述してくる。 ④復 習 (30分) 授業ファイルを整理しながら、コーチなどの指導者に求められる促発能力が発揮できたかどうか振り返る。
6	①授業テーマ 方法実習 リフティング① ②授業概要 コーチなどの指導者として求められる「促発能力」を意識し、授業内で「リフティング」のコーチングを行う（F1、F2、I2、I3、A2）。コーチング内容は授業内で配布される授業シートに記述する（I2、I3）。 ③予 習 (30分) リフティングについて、第5回目の授業内で配布される予習シートに予習内容を記述してくる。 ④復 習 (30分) 授業内容を振り返り、第7回目の授業で「促発能力分析報告書」を作成する準備をする。
7	①授業テーマ 方法実習 リフティング② ②授業概要 第6回目の授業で行なったコーチング内容を振り返り、「促発能力分析報告書」に記述する（F1、F2、I2、I3、A2）。 ③予 習 (30分) 第6回目の授業で記入した授業シートを振り返り、「促発能力分析報告書」に記述する準備をする。 ④復 習 (30分) 「促発能力分析報告書」を基に、第8回目の授業でコーチングを行う準備をする。
8	①授業テーマ 方法実習 リフティング③ ②授業概要 コーチなどの指導者として求められる「促発能力」を意識し、授業内で「リフティング」のコーチングを行う（F1、F2、I2、I3、A2）。第6回目の授業で行なった対象者とは異なる対象者にコーチングを行う（A2）。コーチング内容は授業内で配布される授業シートに記述し、コーチングメソッドを考える（F1、F2、I2、I3、A2）。 ③予 習 (30分) リフティングについて、「促発能力分析報告書」に記述した内容を基に、第7回目の授業内で配布される予習シートに予習内容を記述してくる。 ④復 習 (30分) 授業ファイルを整理しながら、コーチなどの指導者に求められる促発能力が発揮できたかどうか振り返る。
9	①授業テーマ 方法実習 ゴルフ パター① ②授業概要 コーチなどの指導者として求められる「促発能力」を意識し、授業内で「ゴルフ パター」のコーチングを行う（F1、F2、I2、I3、A2）。コーチング内容は授業内で配布される授業シートに記述する（I2、I3）。 ③予 習 (30分) ゴルフ パターについて、第8回目の授業内で配布される予習シートに予習内容を記述してくる。 ④復 習 (30分) 授業内容を振り返り、第10回目の授業で「促発能力分析報告書」を作成する準備をする。
10	①授業テーマ 方法実習 ゴルフ パター② ②授業概要 第9回目の授業で行なったコーチング内容を振り返り、「促発能力分析報告書」に記述する（F1、F2、I2、I3、A2）。 ③予 習 (30分) 第9回目の授業で記入した授業シートを振り返り、「促発能力分析報告書」に記述する準備をする。 ④復 習 (30分) 「促発能力分析報告書」を基に、第11回目の授業でコーチングを行う準備をする。
11	①授業テーマ 方法実習 ゴルフ パター③ ②授業概要 コーチなどの指導者として求められる「促発能力」を意識し、授業内で「ゴルフ パター」のコーチングを行う（F1、F2、I2、I3、A2）。第9回目の授業で行なった対象者とは異なる対象者にコーチングを行う（A2）。コーチング内容は授業内で配布される授業シートに記述し、コーチングメソッドを考える（F1、F2、I2、I3、A2）。 ③予 習 (30分) ゴルフ パターについて、「促発能力分析報告書」に記述した内容を基に、第10回目の授業内で配布される予習シートに予習内容を記述してくる。 ④復 習 (30分) 授業ファイルを整理しながら、コーチなどの指導者に求められる促発能力が発揮できたかどうか振り返る。
12	①授業テーマ 方法実習 ダブルダッチ① ②授業概要 コーチなどの指導者として求められる「促発能力」を意識し、授業内で「ダブルダッチ」のコーチングを行う（F1、F2、I2、I3、A2）。コーチング内容は授業内で配布される授業シートに記述する（I2、I3）。 ③予 習 (30分) ダブルダッチについて、第11回目の授業内で配布される予習シートに予習内容を記述してくる。 ④復 習 (30分) 授業内容を振り返り、第13回目の授業で「促発能力分析報告書」を作成する準備をする。
13	①授業テーマ 方法実習 ダブルダッチ② ②授業概要 第12回目の授業で行なったコーチング内容を振り返り、「促発能力分析報告書」に記述する（F1、F2、I2、I3、A2）。

	③予 習 (30分) 第12回目の授業で記入した授業シートを振り返り、「促発能力分析報告書」に記述する準備をする。 ④復 習 (30分) 「促発能力分析報告書」を基に、第14回目の授業でコーチングを行う準備をする。
14	①授業テーマ 方法実習 ダブルダッチ③ ②授業概要 コーチなどの指導者として求められる「促発能力」を意識し、授業内で「ダブルダッチ」のコーチングを行う（F1、F2、I2、I3、A2）。第12回目の授業で行なった対象者とは異なる対象者にコーチングを行う（A2）。コーチング内容は授業内で配布される授業シートに記述し、コーチングメソッドを考える（F1、F2、I2、I3、A2）。 ③予 習 (30分) ダブルダッチについて、「促発能力分析報告書」に記述した内容を基に、第13回目の授業内で配布される予習シートに予習内容を記述してくる。 ④復 習 (30分) 授業ファイルを整理しながら、コーチなどの指導者に求められる促発能力が発揮できたかどうか振り返る。
15	①授業テーマ 競技スポーツ方法実習Ⅱのまとめ ②授業概要 コーチなどの指導者に求められる「運動促発能力」は「観察能力」「交信能力」「代行能力」の3つの能力を伝え手の基礎的な促発能力としながら、運動伝承の重要な能力としての「処方能力」を含めて構成されることをこれまでの授業内容を振り返り学修する（F1、F2、I2、I3、A2）。そして、まとめ課題に取り組む（F1、F2）。 ③予 習 (30分) 競技スポーツ方法実習Ⅰでの「促発能力分析報告書」、「トレーニング分析書」や「創発能力分析報告書」、スポーツ運動学原論の第8回目、及び第13回目の内容、競技スポーツ方法実習Ⅱにおける4回分の「促発能力分析報告書」、「予習シート」および「授業シート」から総括できるように準備する。 ④復 習 (30分) 授業ファイルを整理しながら、競技スポーツ方法実習Ⅲへの準備を行う。
関連科目	「競技スポーツ実習Ⅰ SCS 1301」（1年次前学期配当）、「競技スポーツ実習Ⅱ SCS 1302」（1年次後学期配当）、「競技スポーツ習得実習Ⅰ SCS 1303」（1年次前学期配当）、「競技スポーツ習得実習Ⅱ SCS 1304」（1年次後学期配当）、「スポーツ運動学原論 SCS 1308」（1年次配当）、「競技スポーツ方法実習Ⅰ SCS 2305」（2年次前学期配当）、「競技スポーツ方法実習Ⅲ SCS 3603」（3年次前学期配当）
教科書	ファイルを配布し、資料を収納していきます。
参考書・参考URL	開講時に紹介します。
連絡先・オフィスアワー	■連絡先 開講時に告知します。 ■オフィスアワー 開講時に告知します。
研究比率	

